

北海道立市民活動促進センターは、営利を目的としない、地域の様々な課題を自ら解決しようとする道内の市民活動を応援しています。

## 特集

## 道内で活躍する市民活動を紹介します

平成 26 年度の当センター事業で、道内で活躍している市民活動団体の活動を集録した「活きいきまちづくり～北海道の市民活動レポート 2014」(当センターホームページで閲覧できます)を作成しました。その一部を抜粋して順次ご紹介しています。

今回は「NPO 法人子育てサポートネットる・る・る(中標津町)」「NPO 法人馬木葉クラブ(釧路町)」「NPO 法人千歳ひと・魅力まちづくりネットワーク(千歳市)」の 3 団体の活動をご紹介します。

### NPO 法人子育てサポートネットる・る・る (中標津町) ～地縁の無い子育て世代のママたちを サポート～

人がいる、集まる、場所がある。近くに知り合いのいない子育て世代の母親たちにとってそんな心強い言葉はないだろう。子育て支援ボランティア団体「NPO 法人子育てサポートネットる・る・る」という名前の「る・る・る」はこの 3 つの言葉の語尾からとってつけられた。

代表の松實とよ実さんは釧路市で育ち、中標津町に嫁いだ。地縁のない中での子育てで苦労した自らの経験や、もともと保育士だったこともあり、子育て支援活動をしたいという強い思いがあったという。そんな中、中標津町で 2 年連続で高校生による殺傷事件が起こり、母親たちに衝撃が走る。

「2 年連続で殺傷事件が起こるこの町でこのまま子育てを続けていて大丈夫だろうか、このままではいけない」と児童委員や子育てに関わる活動をしていた母親たち 7 人が集まり、町長に依頼して教育の問題を住民全体で考えようと住民大会に参加した。

その後子育て支援ボランティア「ホットハンド」をつくり、保護者に対してアンケート調査を実施した。その時に回答で一番多かったのがゼロ才児を持つ母親達の声。「中標津町は酪農業に関する営業所が

多くて空港も近いことから、転勤族の若い夫婦が多く、大半が地縁はないけれど、初めてこの町で出産するというケースが多いことがわかりました。その時はまだ町は子育て支援の活動に積極的ではありませんでした」と松實さん。

当時は児童館でサロンを開いていたが、町が子育て支援に取り組むことになり、一度は活動を中断。しかし、「続けてほしい」と母親たちからの声が強くなりスーパーの従業員休憩室だった場所を使って続けることになった。子供を預けて買い物ができ、便利なことから利用者が増えていったが、手狭になったこともあって自分たちの拠点を作ろうと場所探しをすることに。松實さんの自宅敷地内には使っていなかった貸事務所があったため、そこを改築して 2004 年 4 月に施設をオープンさせた。



築 30 年ほどの貸し事務所を  
改装したという活動拠点

広々とした自宅の敷地内には、駐車できるスペースも沢山あり、松實さんの実妹が経営するカフェもある。

### ■ 働く場所にするために NPO 法人化

託児サービスをしたり、四季のイベントを企画したりするなど、ボランティア団体、サークル団体、

## NPO法人 子育てサポートネットる・る・る（中標津町）

個人事業のネットワークが多方面に築かれていった。それぞれの会同士では、連携を密にするために運営委員会を定期的に開いている。

2009年には“る・る・る”に集う個人事業主たちが産前産後の母親たちや赤ん坊の体のサポートケアをする「ママズケアそれいゆ」という団体を作り、近隣の市町村でカルチャースクールを開いたり、講演会などを行ったりしている。

このように様々な会ができたことで、事務処理や各団体との連絡調整が必要になったため、2011年3月NPO法人設立準備会を発足し、2012年2月からNPO法人として活動することになった。

運営活動費には、国や道の助成金や利用料金、会費などがある。会員は、それぞれのグループが会員となっている正会員、賛助会員は寄付した人で、昨年6月からは、「る・る・るフレンズ」という制度も設けた。

### ■ 利用者が10年で大幅に増加

利用者は、中標津町だけではなく、羅臼町や浜中町などから買い物を兼ねてくる母親たちも多いとい



託児スペースではぬくもり  
のある木の遊具がある

う。2013年の4月から2014年の3月まで1年間で利用した人は7641人。中でも月曜から金曜まで開院している母乳育児相談室を利用する人が圧倒的に多く、1ヵ月300人程が利用しているという。

最近では地元で市民活動やサークル活動している人たちのほか、これから活動を始めたいという人たちが施設を訪れ、運営のノウハウなどを相談しにくるそうで、「市民活動も盛り上げるための一助になれば」と松實さんは意気込んでいる。



「あいあいサロン」では、わらべ歌やリズム遊びなど音楽を通して親子でふれあい遊びを楽しむ

### ■ 課題や社会的状況と向き合いながら活動を継続

今後、企業や町とも連携して子育てサポートを充実させていく考えで、10年を超えた活動がさらに進化しようとしている。ただ、実際に企業からオファーがきてもスタッフはフル稼働で、新しい事業を始めるには人手不足なのが実状。スタッフを雇うとなると、採算を取るため、利用料金を高く設定しなければならない。料金を据え置いたままで母親たちへのサポートをしたいという気持ちと、事業を広げて働く場所を提供するため値上げしてスタッフを増やしたいというもどかしい状況にある。その板挟みの状況の解決が松實さんの課題でもあるという。

さらに、ここまで成長した会の活動も母親たちの働き方の変化によってニーズが少なくなっていく懸念もあるという。

中標津町は、少しずつ人口が増え、出生率も道内3位という珍しい地域。だが「これからはそんなに子供たちが生まれるわけではないので人口は自ずと減っていくでしょう。活動を始めた当初は産休期間で赤ちゃんを産んでから3~4年はお家の中にいるというお母さんたちがお子さんを連れて集まる場所としてここを提供していました。でも今の国の政策では産休を取ったとしても1年で、2年目からは子供を預けて働きに出ていくようになっています。こうした子育て支援も1年間の産休をとっている人たちだけが利用するのがせいぜいで、社会的ニーズもこれから変わっていくのではないのでしょうか。そんな中でも1年ごとに地道に活動を続けていこうと思っています」と松實さん。

### ■ 連絡先

〒086-1054  
中標津町東14条北1丁目  
代表 松實 とよ実（まつみ とよみ）  
TEL/FAX：0153-72-3259  
Email：rururu@snow.plala.or.jp  
URL：http://www.npo-rururu.net/

## NPO 法人 馬木葉クラブ（釧路町）

### NPO法人馬木葉クラブ(釧路町)

#### ～動物の世話を通じて

#### 障がい者の自立を目指す～

厩舎の清掃作業をしていた障がい者の仕事ぶりをカメラに収めようと近づくと、全員が振り向いて元気なあいさつをかけてきた。その顔はみんな明るく、仕事楽しくて仕方がないといった表情。

これは馬をはじめとする動物の世話をすることで、知的障がい者に責任感と自立心をつちかってもらおうと、釧路町<sup>べっぼ</sup>別保に開設されているデイサービス福祉施設・NPO法人「馬木葉クラブ」の一日の風景。



みんな力を合わせて厩舎の掃除。額には汗がキラリッ

通ってくる障がい者の自立への道は、ゆっくりながら着実に進んでおり、その手法は道内外の同じような福祉施設から注目されている。

#### ■ アニマルセラピーと生きる道

動物とのかかわりが、人間の健康を支え、精神を安定させる効果があることがわかるにつれ近年、病気の療養や独居高齢者の癒しなどに動物を介在させるケースが増えている。アニマルセラピーだ。「馬木葉クラブ」の場合、障がい者の生きがいや自立心向上の手段として、動物の世話を日常生活の軸に据えて活動しているのが特色。

このNPOは障がい者の自立に熱い情熱を注いでいた一人の福祉施設職員と、その行き方に賛同した保護者らの思いが合致して2005年に誕生した。岸本慎吾さん（当時25）。初代理事長で、現在は深川市内の福祉施設勤務。高校生の頃、アニマルセラピーを知り、中でも乗馬によって障がい者に好影響をもたらすホースセラピーにのめり込んだ。そこで障がい者乗馬の国内唯一の学校だった日高・浦河町の乗馬療育インストラクター養成学校に進学。馬と障がい者の関係について理論と実践を学び、人と馬がどう接したらいいのかの専門知識を身に付けた。卒業と同時に旭川の福祉施設に勤めたが、活動の仕

方が自分の考えと合わず、釧路のデイサービス施設に移った。

ここでは障がい者と一般社会とのかかわり強化をはじめ、障がい者の新しい生きがいの実現に向けて大奮闘。この活動は高い評価を受けた反面、施設側から「仕事が増える」、「出費が嵩む」などと総すかん。窮地に立ち「辞めよう」と決意した時、相談に乗ってくれたのは保護者の面々。本人が「将来は障がい者が馬と共に暮らす、牧場のような施設を作りたい」との夢を持っていることを知り、「その夢を今、この釧路で実践して。土地や資金は我々が出しませう」と思ってもみない申し出。岸本さんは、自分の夢が叶うとあって快諾。それからわずか1年足らずの間に、釧路町の森林に十分な土地が用意され、事務棟、厩舎を新設、馬も1頭手に入れた。馬の世話役として養成学校時代の親友・古田<sup>たけとし</sup>壮利さんを迎え入れ、経理や運営全般に目配りする



ごきげんね。馬のごきげんをうかがう清水理事長。そこには深い信頼関係が

総務役として現理事長の清水一恵さんにも加わってもらった。

#### ■ 待望の「馬木葉クラブ」誕生

施設には、国から多少の補助金が出るが、これだけではNPOの運営は覚つかない。そこで有料で馬に乗ってもらう乗馬クラブ「ケ・セラ」を併設、畑で農作物を育て、その一部を売って収入にした。馬木葉の名は、馬が居て森林に囲まれ、農作物（葉）を育てる牧場、という意味でつけた。

ところが開設した場所では、農地法の規定によって乗馬クラブなどの事業は出来ないことがわかり、張り切っていた一同はがっくり。やむなく馬の世話と農業だけでやってゆこうと覚悟を決めていた矢先、今度は人間関係がこじれ、金銭問題も吹き出して、土地や資金の提供者から「出て行ってほしい」との通知。強力な後ろ盾を失い、一時は絶望のどん底に。しかし受け入れている通所者を見放すわけにはゆかない。新しい土地を見つけて自力で施設を続けるこ

## NPO 法人 馬木葉クラブ (釧路町)

とを決意、見つけたのが現クラブのある別保だった。すぐ賃貸契約を結び、にわか大工の手作業で施設や厩舎を整備し、年の暮れに引っ越した。

### ■ 新施設船出、軌道に乗る

2006年春。資金不足とにわか大工の悲しさで、施設の整備は思うように進まなかったが、唯一、救いだったのは障がい者メンバーが、施設でひたすら馬の世話をし、畑仕事に明け暮れていたため体力をつけ、さらに思いやりや協調性を身につけていたこと。だれに指図されることなく厩舎の敷藁交換や水汲み、餌やり、馬毛ブラッシング、パドックでの手綱引きなど、それぞれの役割りや共同作業を立派にこなせるように成長していたのだ。ホースセラピーが、障がい者の成長の大きな効果をもたらしていることを改めて認識した。

一方、施設の窮状を知った地域の人たちからは新しい馬の格安提供があったほか、ミニブタやヤギの寄贈が相次ぎ、施設は馬2頭、ミニブタ3頭、ヤギ2頭と小動物園並みのにぎやかさに。動物との触れ合いや世話も一挙に増え、同時に責任感や共助性などは目に見えて向上していった。

一般対象の乗馬クラブを正式にスタートさせる一方、経営の安定を図ろうと、旧レストランのカフェスペースを利用して「喫茶・陽だまり」をオープン。他の障がい者施設で作られたアクセサリやインテリア雑貨などの受託販売にも乗り出した。

さらに革製品や布小物の作業スペースを設け、スリッパや財布、買い物袋などを制作してもらい即売するようにした。

だが、これだけの経営努力にもかかわらず施設の台所は火の車。働いたメンバーには給料を支払わねばならない。その他給食費、光熱費、交通費…

ここにきて、岸本理事長は心身共に疲れ、同時に自分が身を引くことで1人分の人件費が浮き、その分を運営費に回せる、の思いから辞意を表明。スタッフも心情を察してこれを受け入れた。2008年清水一恵さんが2代目理事長として後を託された。

### ■ 新理事長大活躍 地域に融け込む

清水さんは釧路市出身。地元の福祉施設で働いていた折、初代理事長に、福祉にかける情熱とエネルギーな行動力を買われて創設時からスタッフに加わっていた。

クラブの内情は熟知しており、就任と同時にクラブ運営のすべての面で八面六臂の大活躍。4人のスタッフも全面協力。通所メンバーたちも、動物の世話や小物作りに一層真剣に取り組んだ。新たな事業として動物の排泄物を堆積し、発酵させて有機肥料にして売り出したり、町内外の祭りやイベントに積極的に参加して、自作の革や布小物の販売なども取り入れた。これらすべては、17人の障がい者メンバーが手分けしたり、全員で力を合わせて行っており、接客時の対応もきちんと身につけている。



和気あいあい。楽しく話しながら有機肥料づくりに精を出す通所メンバー

こうした活動で、経営は徐々に好転、ここ1,2年は若干だが黒字を計上するまでに。施設の狙いが知られるにつれ、バックアップの輪もどんどん広がり、施設は、地域と共に歩む姿に変貌しつつある。

清水理事長は今後について「皆さんのお陰でここまで来れました。施設の中は動物も含めみんな和気あいあいで、一つの家族のようです。でもメンバーの高齢化も進んでいます。自立したい方にはさせてあげたいし、それがまだ先という人たちには、いずれ、仕事をしながら一緒に暮らせるグループホームのような施設を作りたいです」と夢を語っている。

### ■ 連絡先

〒088-0605  
 釧路郡釧路町別保原野南 25 線 65-8  
 NPO 法人 自立訓練施設馬木葉クラブ  
 理事長 清水 一恵 (しみず かずえ)  
 TEL/FAX : 0154-40-6060  
 E-Mail : makiba.club@space.ocn.ne.jp

## NPO 法人 千歳ひと・魅力まちづくりネットワーク (千歳市)

### NPO 法人千歳ひと・魅力まちづくりネットワーク (千歳市)

#### ～ 市民活動同市の橋渡しのために ～

情報誌「千歳市民情報文化ひろば」12月号に向けての編集会議、それぞれ情報を持ち寄ってきたメンバー5人が話し合っている。

こうした編集会議が月4回行われており、編集に関わる主要メンバーは10人ほど。メンバーによって都合のつく時間が違うため、午前中と夜の2回ずつ



「ひと・まちネット」の編集会議、月4回行われており、メンバーがそれぞれ情報を持ち寄

会議を行い、4回目で印刷を行うといったスケジュールになっている。企画、構成、取材、執筆、印刷、誌面に使われているイラストもメンバーが描き、配布まですべてメンバーが行っている。

#### ■ 自分たちの町を、自分たちで

情報誌の発行団体は、「NPO法人 千歳ひと・魅力まちづくりネットワーク」(以下、「ひと・まちネット」)。千歳市の市民活動を支援し、市民活動同士の橋渡しをしようという主旨で、2002年に設立され、代表理事は三上禮子さん、一般理事10人でスタートした。活動目的を「千歳」の「ひと」や「魅力」を紹介して、「まちづくり」と「ネットワーク」作りを目指すとしており、その言葉を並べて、この団体名としている。

代表の三上さんは、「行政、市民が分け隔てなく、自分たちの町は自分たちで作らなければ、という意気込みでこの会を設立しました」と説明する。

発足当初は、市民団体が開くイベントのチケットの販売を請け負ったり、チケット情報をまとめたチラシを発行したりしていたが、「それだけでは物足りない。各団体の事業内容だけでなく、それぞれの熱意も伝えたい」と、2005年5月から、市民団体の催しなどを紹介する情報誌「情報ひろば」の発行を始めたという。

#### ■ 情報誌を月1回発行、10年間継続

「ひと・まちネット」の主な活動は、情報誌の毎月1回発行と、市民と行政の協働事業であるバスツアー「まちめぐりガイド」の企画運営である。さらに、この事業報告をまとめ、ツアーの写真やレポートを市役所ホールに展示すること。そのほか、市内で開催されるイベントにも積極的に参加している。

情報誌は、市民団体の紹介やイベント情報だけでなく、専門家の特色あるコラムや、メンバーの記事なども掲載されている。専門家は、毎回無償で協力しており、千歳市埋蔵文化財センター所長や、サケのふるさと館の学芸員、千歳科学技術大学教授などが執筆している。メンバーが書く記事は、飲食店の紹介や、特集記事など、企画から取材、執筆までそれぞれが担当して千歳の魅力を伝えている。



2005年から月1回発行の情報誌「千歳市民情報文化ひろば」、2014年12月で116号となっている

毎月1000部を発行、市内の公共施設などにメンバーらが直接配布している。

情報誌の最終ページには企業広告が入っており、この収入が年間6万円。この広告料と、会員54人の会費(年間、一般会員3000円、ネットワーク会員1000円)だけで、経費を捻出している。

また、千歳市との協働事業である「まちめぐりガイド」は、「千歳の魅力再発見」というテーマで、バスツアーを企画・運営、報告書作成も行う。市からの事業費年間12万円が、年間5回分のツアーの下見と人件費、報酬、事業報告の作成費などに使われている。

2014年9月25日に実施されたバスツアーは、「縄文時代の生活と社会を考える～チョット味わう食の体験と、キウス周堤墓を訪ねる～」とのタイトル。市民、スタッフ、市役所職員の合計29人が参加した。埋蔵文化財センターや、美々貝塚、トブシナイ2遺跡の発掘現場、キウス周堤墓(国指定史跡)を見学して、千歳の縄文の歴史を学んでいる。

## NPO 法人 千歳ひと・魅力まちづくりネットワーク（千歳市）

ツアーの様子は、「千歳市民情報文化ひろば」にも掲載されている。その記事によれば、「縄文時代の生活体験」として、埋蔵文化財センターで縄文人が食べていたと推測されるシジミを尖底土器で煮たり、



縄文時代の生活を体験するため、尖底土器で作ったしじみ汁を食べている参加者（2014年9月25日実施の「まちめぐりガイドバス」）

縄文人が使っていた黒曜石で鶏の肉を切ってみたりと、なかなか面白い。ただ縄文遺跡を見学するだけでなく、ちょっとした体験メニューもツアーに取り入れるなど、企画に工夫も凝らされている。

### ■ 豊かで幸せな町を作るために

代表の三上さんは、書道家としても知られており、道展の運営委員や審査員、女流書家グループの事務局長なども務めている。常に「自分が生きる書」を生み出すよう向き合っているという。

その三上さんが、市民活動を始めたのは1990年代はじめごろから。

全国的に市民協働のまちづくりが模索され始めたそのころ、千歳市でもその基本政策を作る委員会が立ち上がった。当時母親仲間のサークル活動に励んでいた三上さんは、市民の代表として市委員会のメンバーに加わった。

1999年に、地域の生涯学習における全国フォーラムが千歳市で開催され、その事務局長としてフォーラムに携わった。全国の進んだ組織を目の当たりにし、「行政に頼らず、自分たちが100%できる市民のための組織を作るべきだ」と痛感したという。

さらに、市民による祭り「ふるさとポケット」の事務局を10年間担当したことも大きい。開催にあたって県人会やサークルなどの活動を調べ、協力と参加を呼びかけなければならない。そうした呼びかけを行うことで、「それまで接触のなかった市民や活動団体が、つながって、協力の輪も広がっていったのです」という。

そして、毎年規模が大きくなっていく「ふるさとポケット」に自信を深め、2002年に、市民団体同士のつながりをより深めるために、NPO法人「ひと・まちネット」を設立するに至った。

「まちづくりの目標は、そこに住む人が、幸せであり続けることでしょう。人の魅力に溢れ、豊かで幸せな町を作ることこそが、まちづくりなのだと思います」

三上さんは、そう熱く語る。



「千歳市民情報文化ひろば」を手にする代表理事の三上さん

### ■ 仲間や周りの力が、原動力

「ひと・まちネット」に対する思いを、参加メンバーに聞いた。

「これまで活動を続けてこられた動機、熱意は、どこからきているのですか？」

会創立からのメンバーでもある早川民子さんは、「千歳には市民活動の団体が多くあります。それを市民活動によって応援したいという気持ちが、当初から、今もずっとあって、一緒にやりたいという仲間もいるから、ですかね」

前田はるみさんは、「やはり、仲間の力や周りの力、情報をくれる人がいて……こうした、人とのつながりが、私や会の財産となっていますしね」と話してくれた。

### ■ 連絡先

〒066-0056 千歳市白樺3丁目9-3  
NPO法人  
千歳ひと・魅力まちづくりネットワーク  
代表理事 三上 禮子（みかみ れいこ）  
TEL/FAX：0123-28-1024  
URL [http://park.geocities.jp/chitose\\_hirobanews/](http://park.geocities.jp/chitose_hirobanews/)

# インフォメーション

## ◆道立市民活動促進センター事業のお知らせ◆

### ●協働促進講座●

#### 「協働」による地域社会づくりを学びます

##### 協働促進講座 ①

###### ■テーマ

お互い様の社会を創るために～広報的視点より考える～

###### ■日時・場所

平成27年7月14日(火) 13:00～16:00

かでの2・7、1040会議室

###### ■講師

吉田知津子さん

(認定NPO法人「ハンスオン! 埼玉」 副代表理事)

###### ■内容

「おとうさんのヤキモタイム」(約17,000人の市民が参加)という父親の子育てを応援するキャンペーンなどの事例を基に、埼玉県とNPOの協働事業が、どのような取り組みで県全体に広がっているのかなど、それぞれの役割や広報戦略などについて学びました。



H27.7.14 開催風景

##### 協働促進講座 ② (受講者募集中)

###### ■テーマ

共感と信頼を生むプレゼンテーション

～10ページの提案書～

###### ■日時・場所

平成27年10月15日(木) 18:00～20:30

かでの2・7、1060会議室

###### ■講師

川北秀人さん

(IHOE「人と組織と地球のための国際研究所」代表)

###### ■内容

「思い」を「成果」に結びつけるために必要な「計画するチカラ」の向上をはかり、協働のパートナーが納得し、よい判断ができる提案書の作成方法を講義・個人・グループワークで学びます。

###### ■参加料：無料(別途、テキスト代がかかる場合あり)

※ 詳しくは、ホームページをご覧ください。

### ●NPO 法人設立基礎講座●

#### 「市民活動の基礎からNPO法人設立までを一緒に学びませんか」

コミュニティづくりやボランティア活動、NPOなど市民活動に関心のある方やNPO法人設立を考えている方を対象に「NPO法人設立基礎講座」を開催します。

本講座は、市民活動の基本的な知識からNPO法人設立に必要な手続きや申請書類等について学びます。



H27.9.2 開催風景

###### ■日時：平成27年11月24日(火) 18:00～21:00

平成28年 1月23日(土) 14:00～17:00

平成28年 3月 1日(木) 18:00～21:00

◎各日程同一内容です。ご都合の合う日程でお申し込み下さい。

###### ■場所：「かでの2・7」(札幌市中央区北2条西7丁目)

1040会議室

###### ■内容：講義

「NPOの基礎知識とNPO法人設立に必要な要件や申請書のポイント」

講師 東田 秀美さん

(NPO法人旧小熊邸倶楽部理事長)

###### ■参加料：300円

###### ■定員：30名(先着順とします)

###### ■対象者：市民活動に関心のある方、市民活動実践者 NPO法人設立を考えている方

### ●団体のリーフレット・チラシ募集中●

北海道立市民活動促進センターでは引き続き、主に道内の市民活動団体のリーフレットやチラシを置くスペースを設け、地域(各振興局)ごとに整理して展示しています。センター利用者の方々に、みなさんの団体の活動をご紹介ください。

この他、会報なども展示しており、随時、最新号集めたファイルを作成するほか、過去の会報も団体ごとにファイリングし、利用者が閲覧しやすいように展示しています。

皆様の団体リーフレットやイベントのチラシなど、20枚程度を是非センター宛にご送付ください。

## ◆ 助成金情報 ◆

### ●公益財団法人損保ジャパン記念財団●

#### 2015年度社会福祉事業

##### ①「認定NPO法人取得資金」助成

地域の中核となり、持続的に活動する質の高いNPO法人づくりを支援します。

##### ■助成対象団体

社会福祉分野で活動し、認定NPO法人の取得を計画している特定非営利活動法人

##### ■助成内容

「認定NPO法人」の取得に関する費用であれば、使途は問いません。

※会費、人件費、器材費その他一切使途は問いません。ただし、原則として2017年3月末までに所轄庁（都道府県・政令指定都市）に、「認定」の申請を行うことが必要です。

※所轄庁受付日が2015年4月1日～2017年3月31日のものが対象です。

##### ■選考基準

選考の際は、主に以下の点を総合的に考慮します。

- ・団体の過去の活動実績
- ・団体としての将来性、地域課題解決への貢献度
- ・認定取得に対する取り組みの進捗
- ・認定後の「認定NPO法人」の活用方法

##### ■助成金額：1団体30万円とします。(総額600万円を予定)

##### ■応募期限：2015年10月30日(金)

##### ■お問合せ：公益財団法人 損保ジャパン記念財団

TEL：03-3349-9570

FAX：03-5322-5257

※ 詳しくは、次のホームページをご参照下さい

<http://www.sjnk.wf.org/>

### ●一般社団法人 生命保険協会●

#### 平成27年度「元気シニア応援団体

#### に対する助成活動」

高齢者を対象にした活動に取り組んでいる民間非営利の団体等を支援します。

##### ■助成対象団体

高齢者を対象にした健康管理・増進、自立支援、生きがいづくり等の活動を行っている民間非営利の団体、ボランティアグループ、特定非営利活動法人(NPO法人)等で、所定の要件を満たす団体

##### ■助成対象活動

構成員だけでなく、地域の高齢者を対象とした健康管理・増進、自立支援、生きがいづくり等の活動(従来からの継続活動でも新規活動でも構いません)

##### ■助成金額

1団体当り上限額15万円(助成総額最大500万円)

##### ■応募期限：2015年10月31日(土)

##### ■お問合せ：一般社団法人 生命保険協会

担当：「元気シニア応援活動」事務局

TEL：03-3286-2643

FAX：03-3286-2730

※ 詳しくは、次のホームページをご参照下さい

<http://www.seiho.or.jp/activity/social/>

### ●公益財団法人キリン福祉財団●

#### 「平成28年度キリン・子育て／

#### シルバー「力」(ちから)応援事業」

“地域”“子育て”“ボランティア”をキーワードとして、地域における、子どもに関わる幅広い活動に対して助成します。

##### 【キリン・子育て応援事業概要】

##### ■助成対象団体

助成開始時に18歳以上のメンバーが4名以上活動する団体・グループであればNPO等の法人格の有無、および活動年数は問いません

##### ■助成対象事業

地域における子育てに関わるボランティア活動  
「地域」「子育て」「ボランティア」の3つのキーワードに合致するもの

##### ■助成対象期間

2016年4月1日～2017年3月末日

##### ■助成金額

1件あたりの上限額 30万円(総額3,500万円)  
30万円以内の申請であっても審査の結果、申請金額の一部を減額させていただく場合があります

##### ■応募期限：2015年11月9日(月)

##### 【キリン・シルバー「力」応援事業概要】

高齢者が、地域のために、その知識・技術・経験を活用するグループによるボランティア活動に対して助成します。

##### ■助成対象団体

65歳以上のメンバーが中心となって活動する4名以上のグループ(メンバーの半数以上が65歳以上であり、かつ活動の中心となっている)

##### ■助成対象事業

高齢者が、地域のために、その知識・技術・経験を活用するグループによるボランティア活動

##### ■助成対象期間

2016年4月1日～2017年3月末日

##### ■助成金額

1件あたりの上限額 30万円(総額1,200万円)  
30万円以内の申請であっても審査の結果、申請金額の一部を減額させていただく場合があります

##### ■応募期限：2015年10月30日(金)

##### ■お問合せ：公益財団法人 キリン福祉財団

TEL：03-6837-7013

FAX：03-5343-1093

※ 詳しくは、次のホームページをご参照下さい

<http://www.kirinholdings.co.jp/foundation/>

今回の掲載情報以外の助成金情報や北海道庁からの役立つ情報なども随時更新中です。

ぜひアクセスして下さい。

#### ◎ 北海道立市民活動促進センターのホームページ

<http://www.do-shiminkatsudo.jp/>